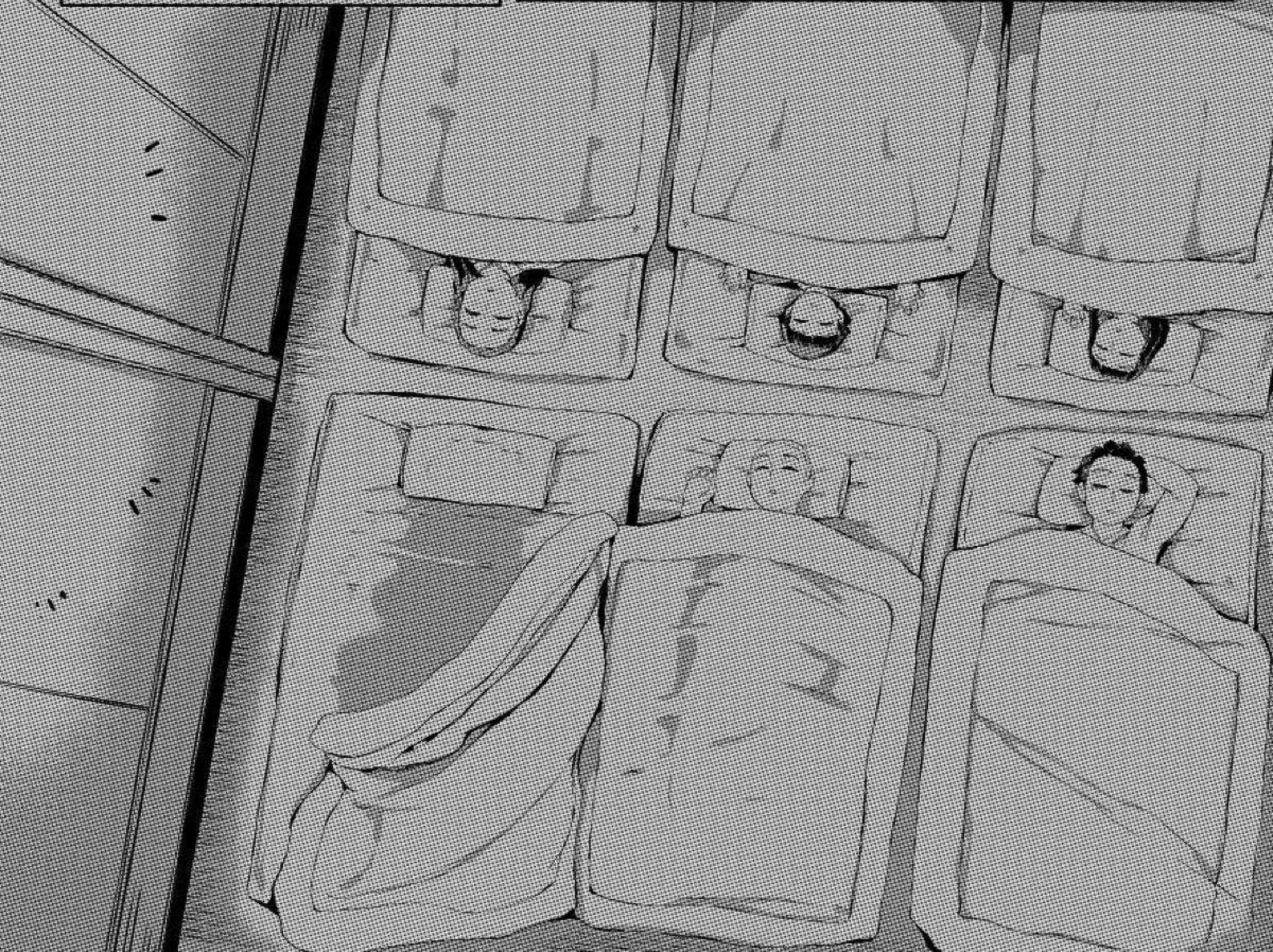
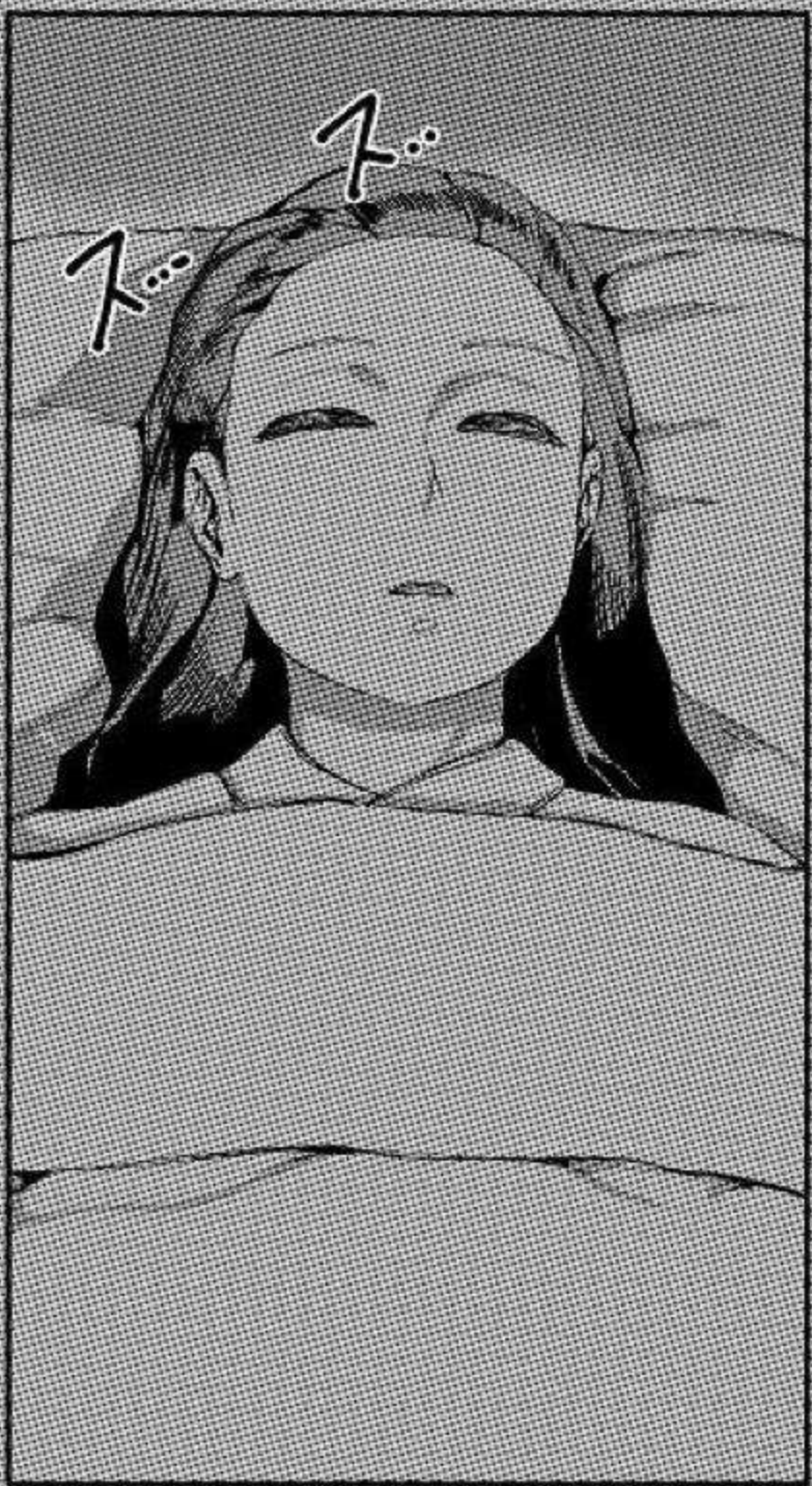


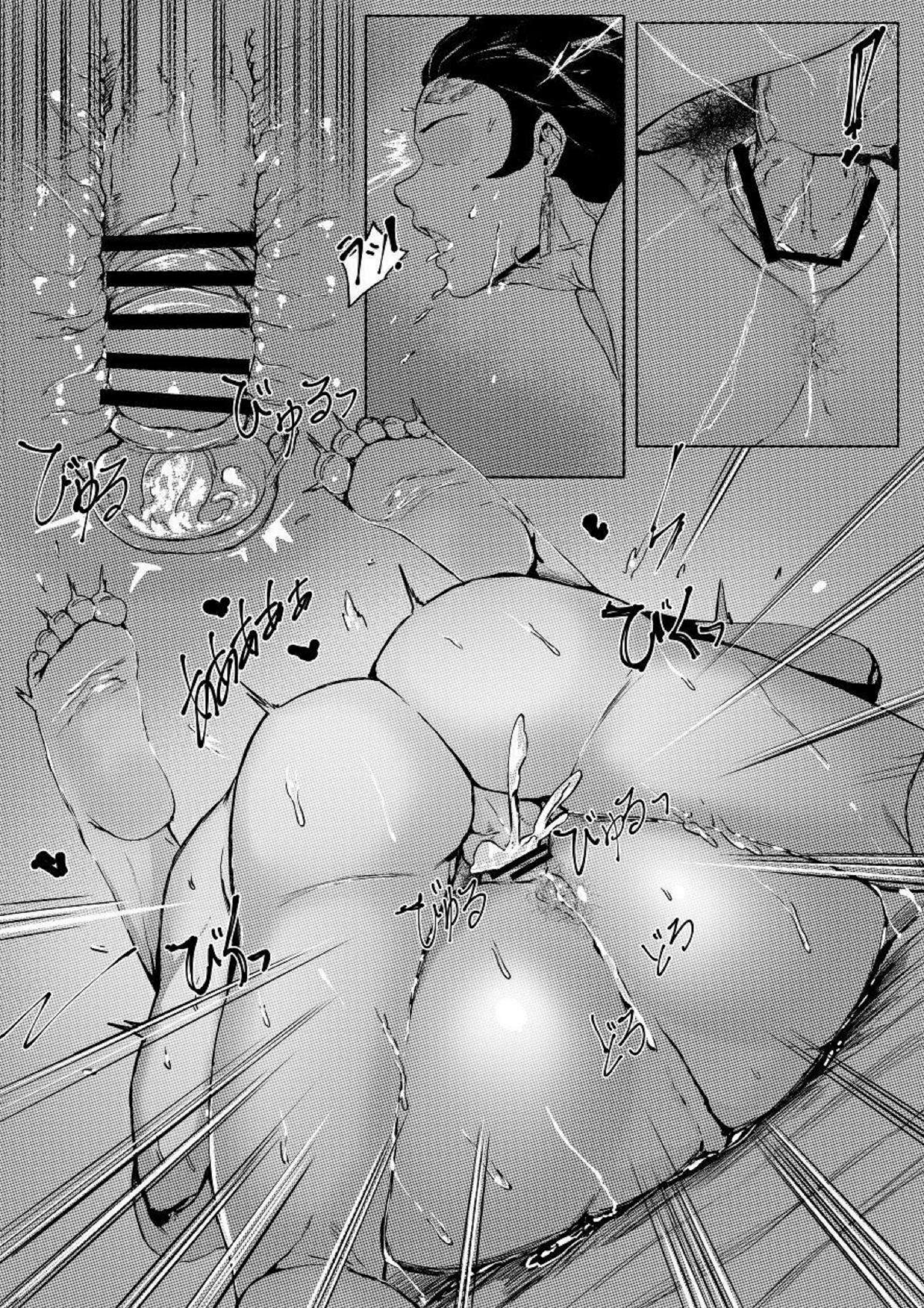


鬼滅の刃

母と私
〈上〉







アッ!

びゅるッ

びゅる

あゝあゝあゝ

アッ

びゅる

びゅる

びゅる



うん...

ママ♡
ママ♡



はあ...あ...
炭治郎

はあ...はあ...
母さん



ママ... 母さん!

ママ

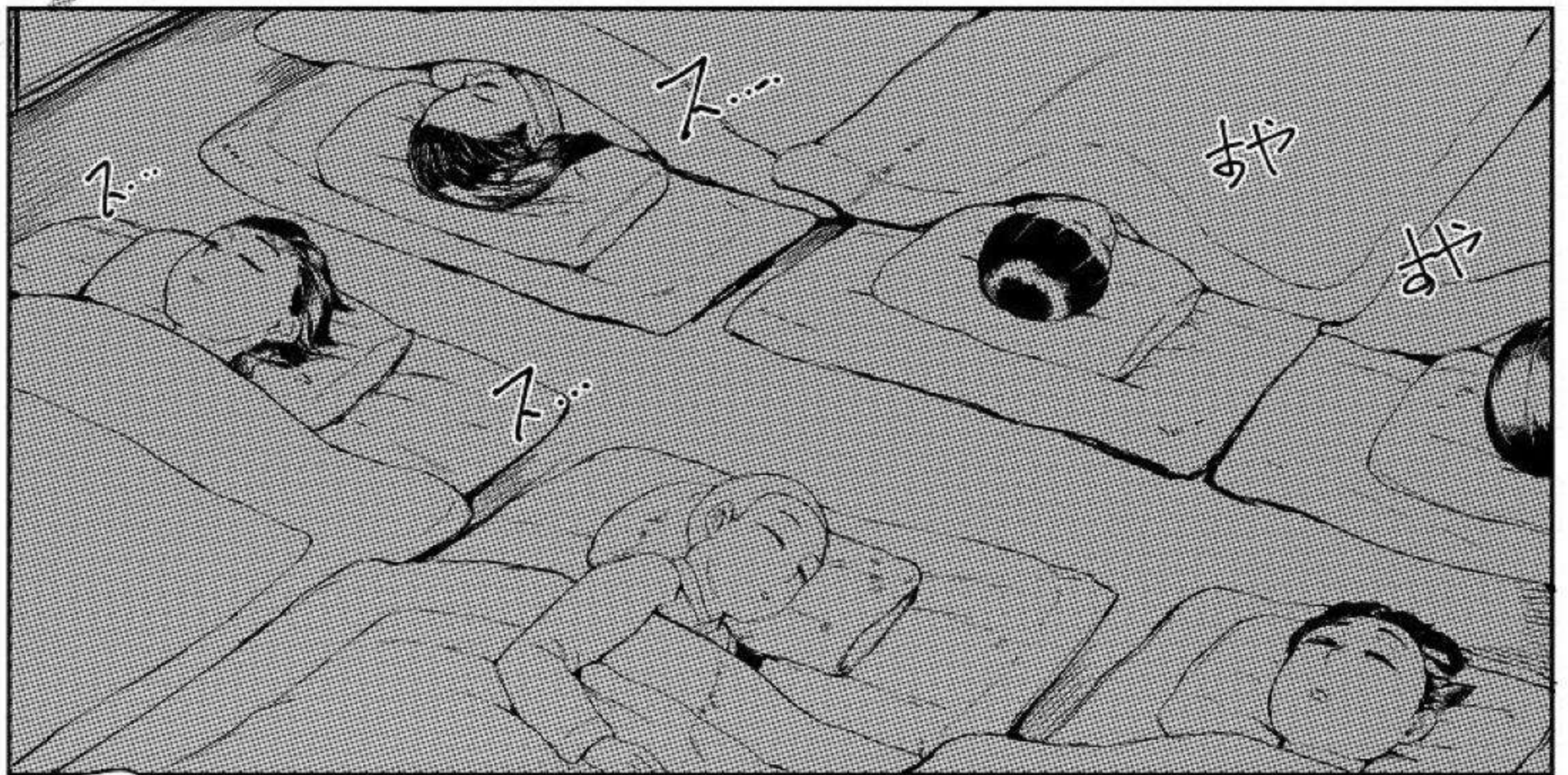
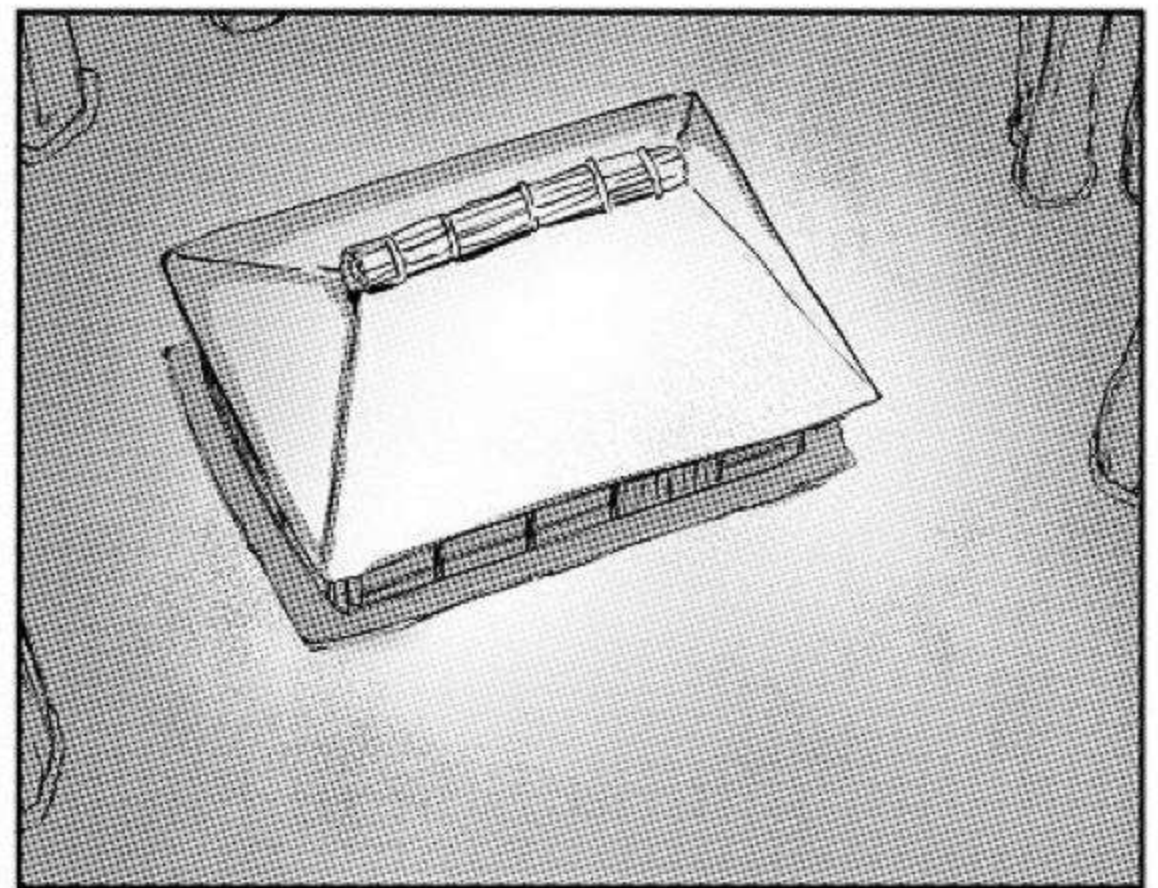
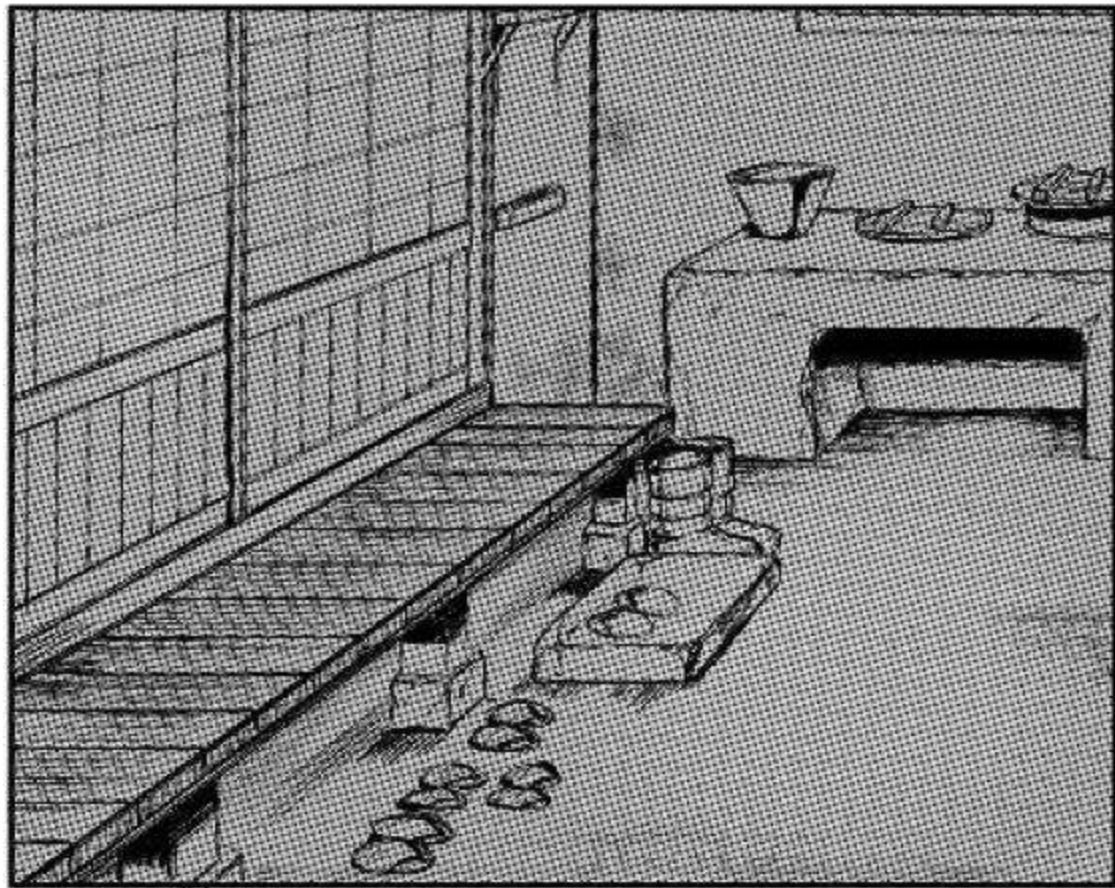
ママ

ママ

ママ

ママ

母さんとこんな関係になっただのは数日前のことだった...

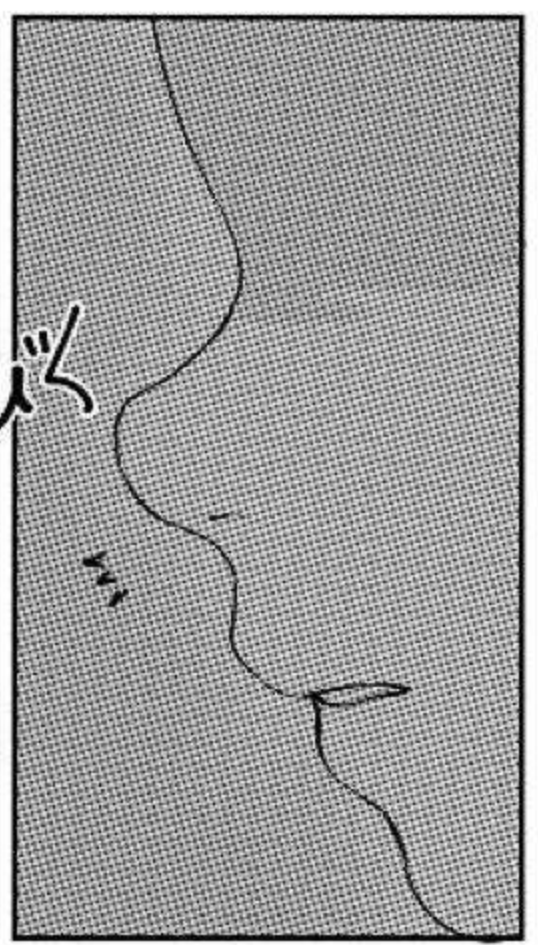




弟たちはみんな寝ているのに...



あれ？
「のフロム」って何じゃ...



びく



母さんの部屋から漏れていたのか？

スフスフ...



ス...ス



スフス

一体、母さんの部屋で何が？

初めて嗅いだ匂いだけど、
何か気が遠くなりそうなの...

ア!!

ガラ

母さんとは多分離れてるのかも...

はあ

はあ

はあ

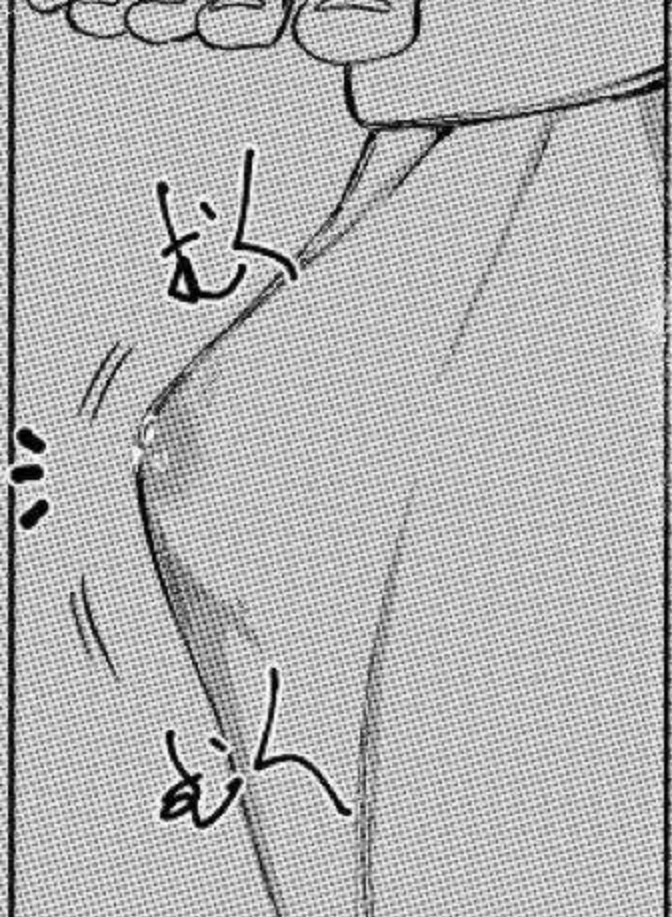
はあ

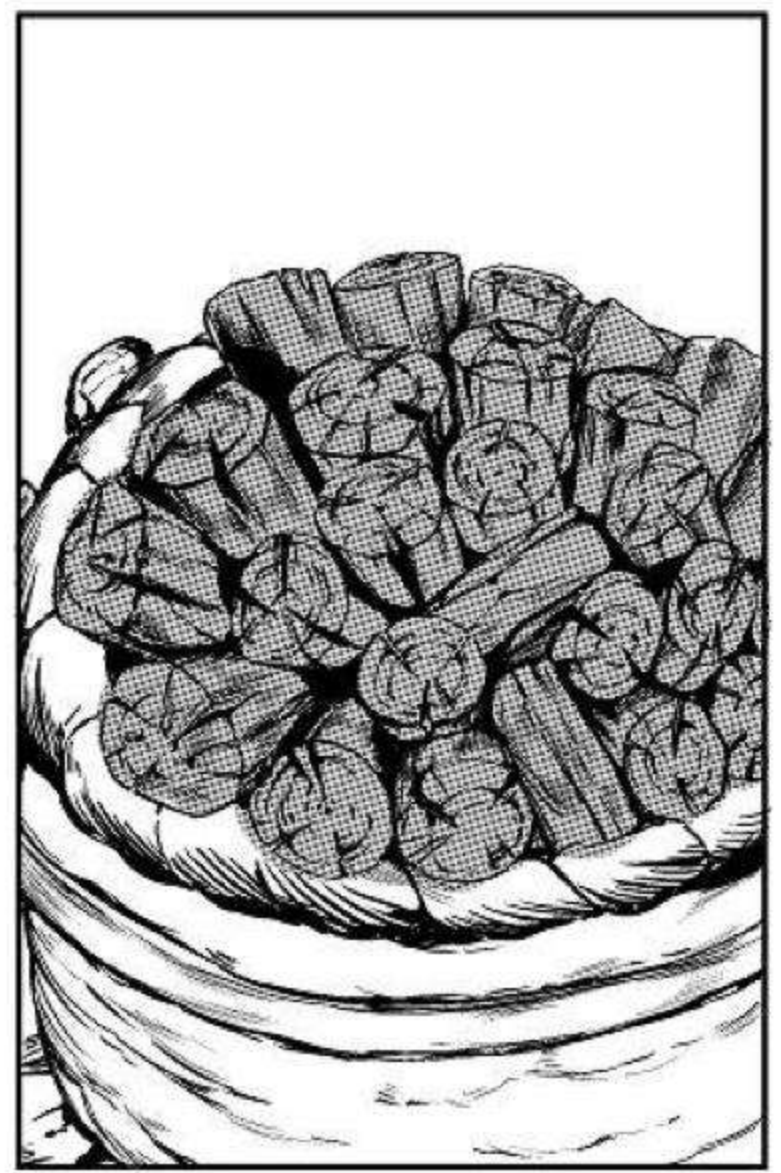
はあ





母さんのまんなから
凄く泣く...







どうかしたの？
オツキからポーって立ちっぱなしで…

か…
母さん？



だから
これ以上…

炭治郎

ん？



変な側に考えちゃダメだ！
母さんだよ。
母さん！！



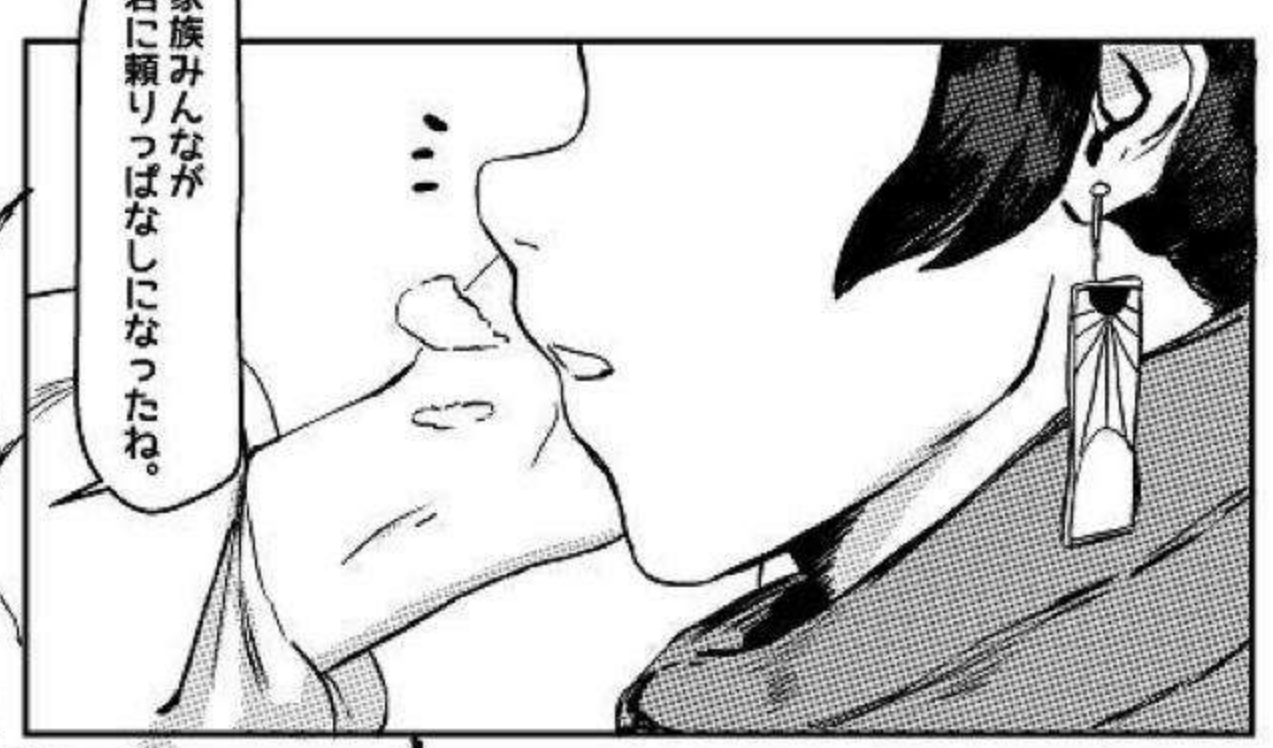
いやあ…
ちょっと考え事だね

ううう…
何か母さんに悪いなあ…

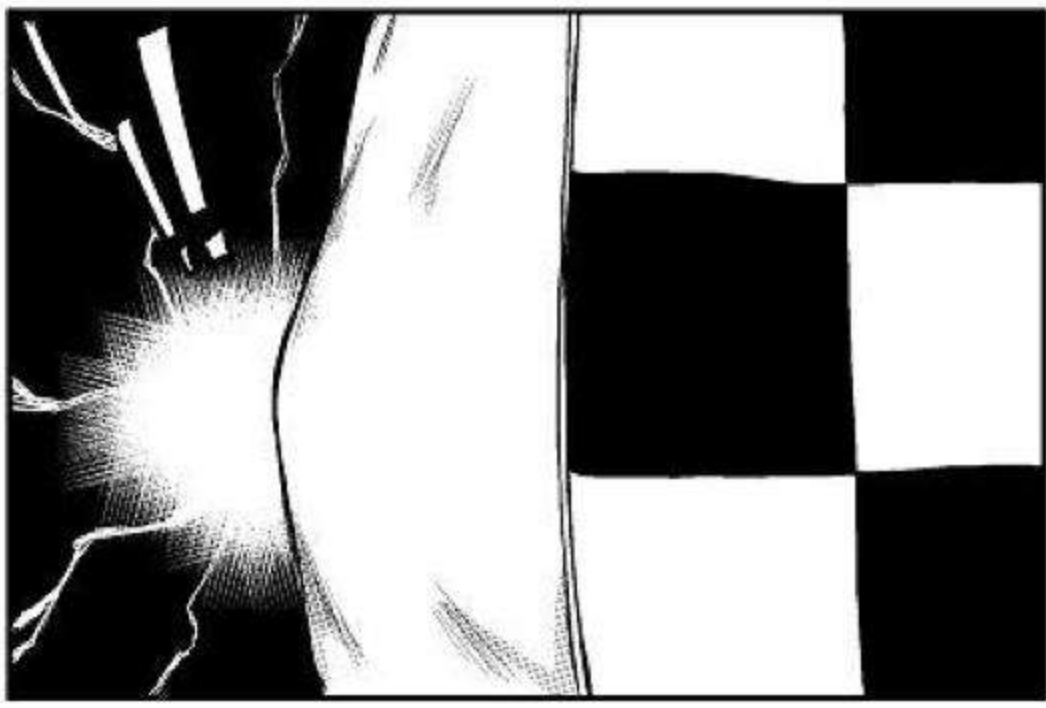
そう？
だったら今日は休みなさい。

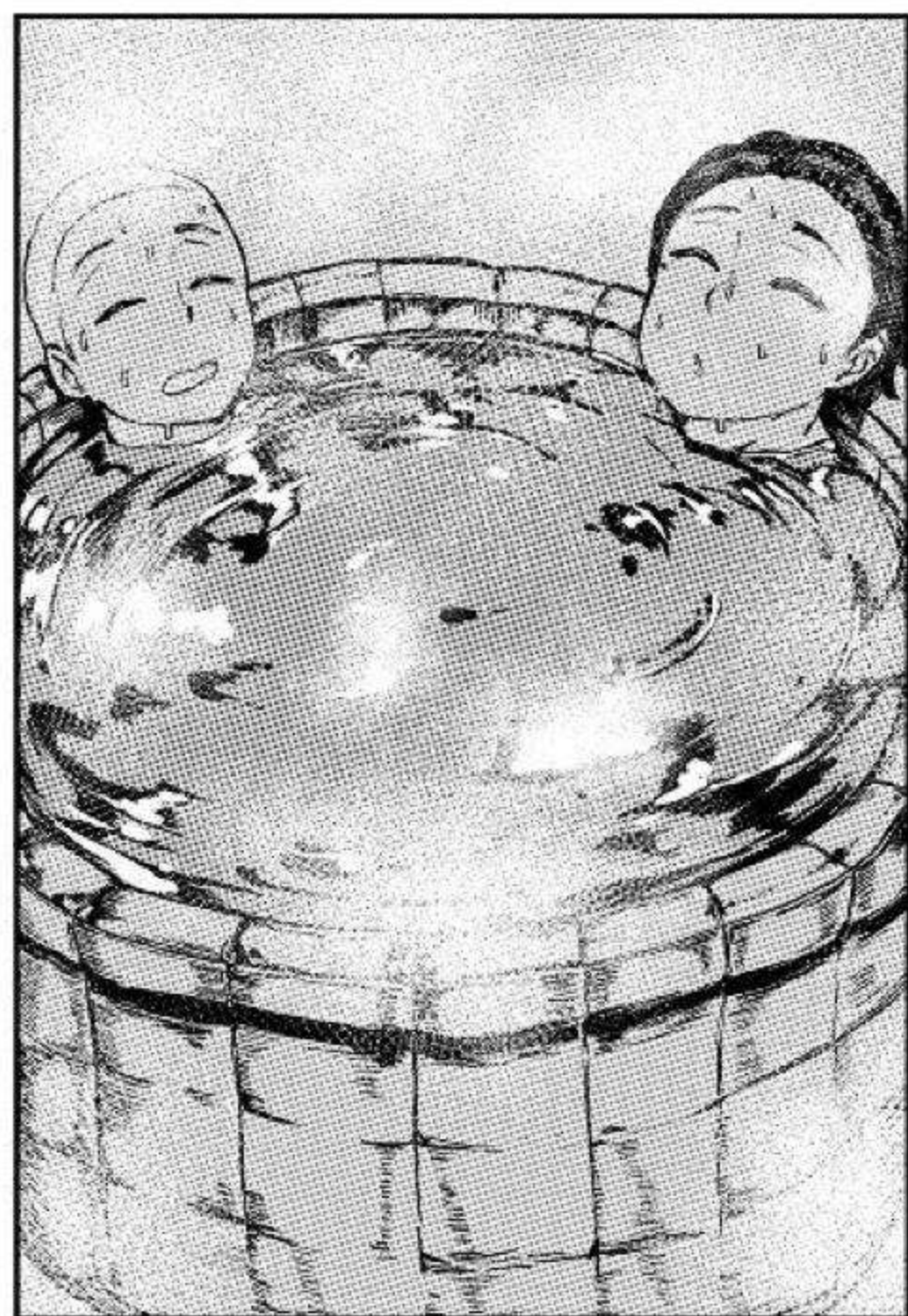


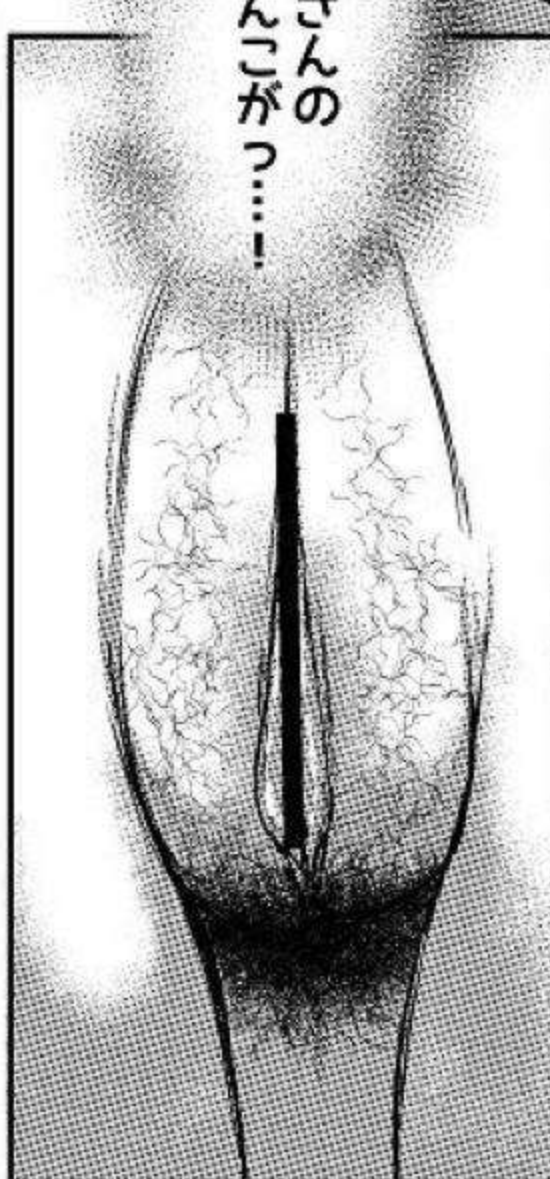
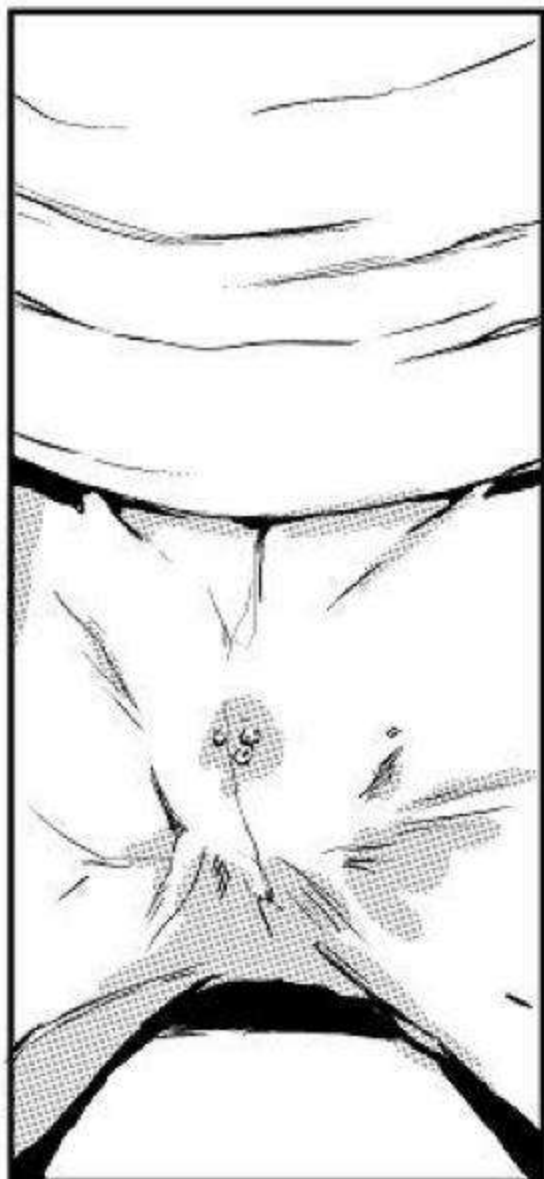
ありがとう…炭治郎。

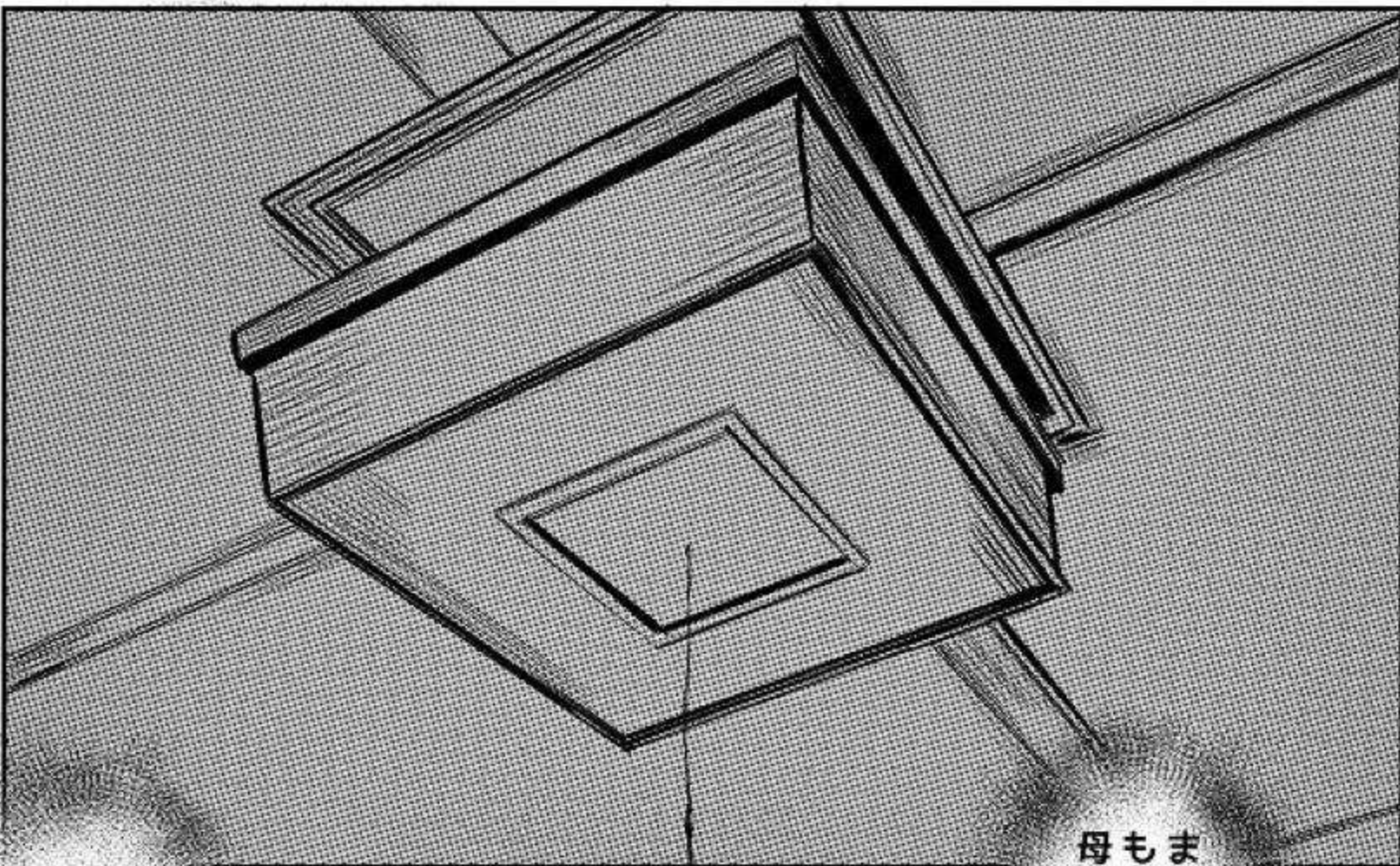


家族みんなが
君に頼りっぱなしになったね。





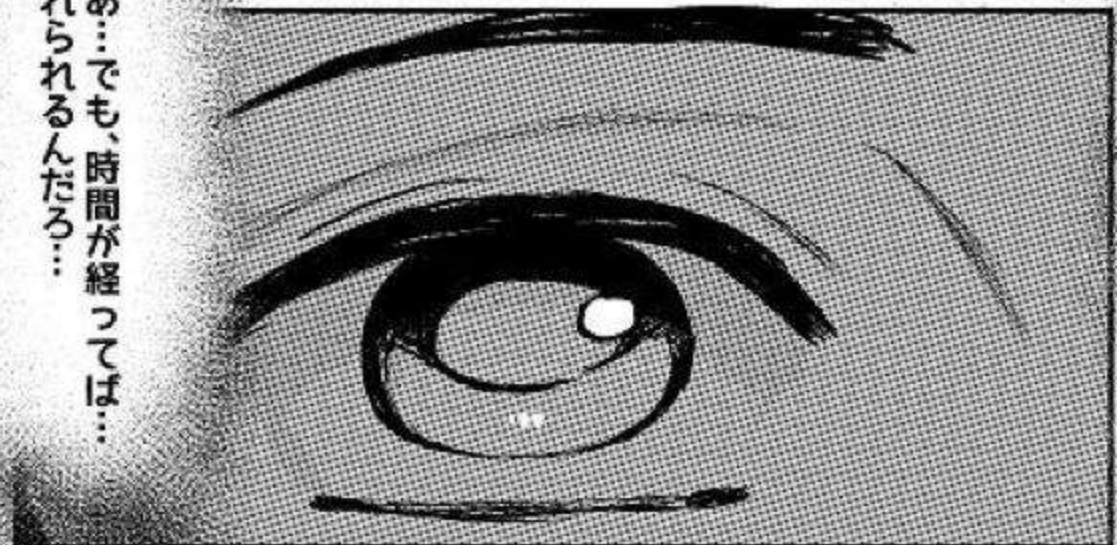




まったく…
もうまともに
母さんを直視出来なくなっちゃった…



はあ…でも、時間が経ってば…
忘れられるんだろ…

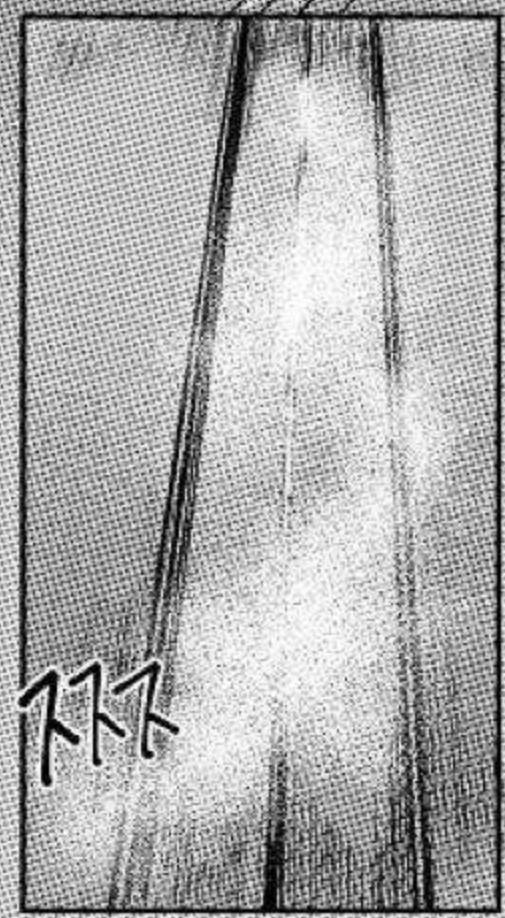
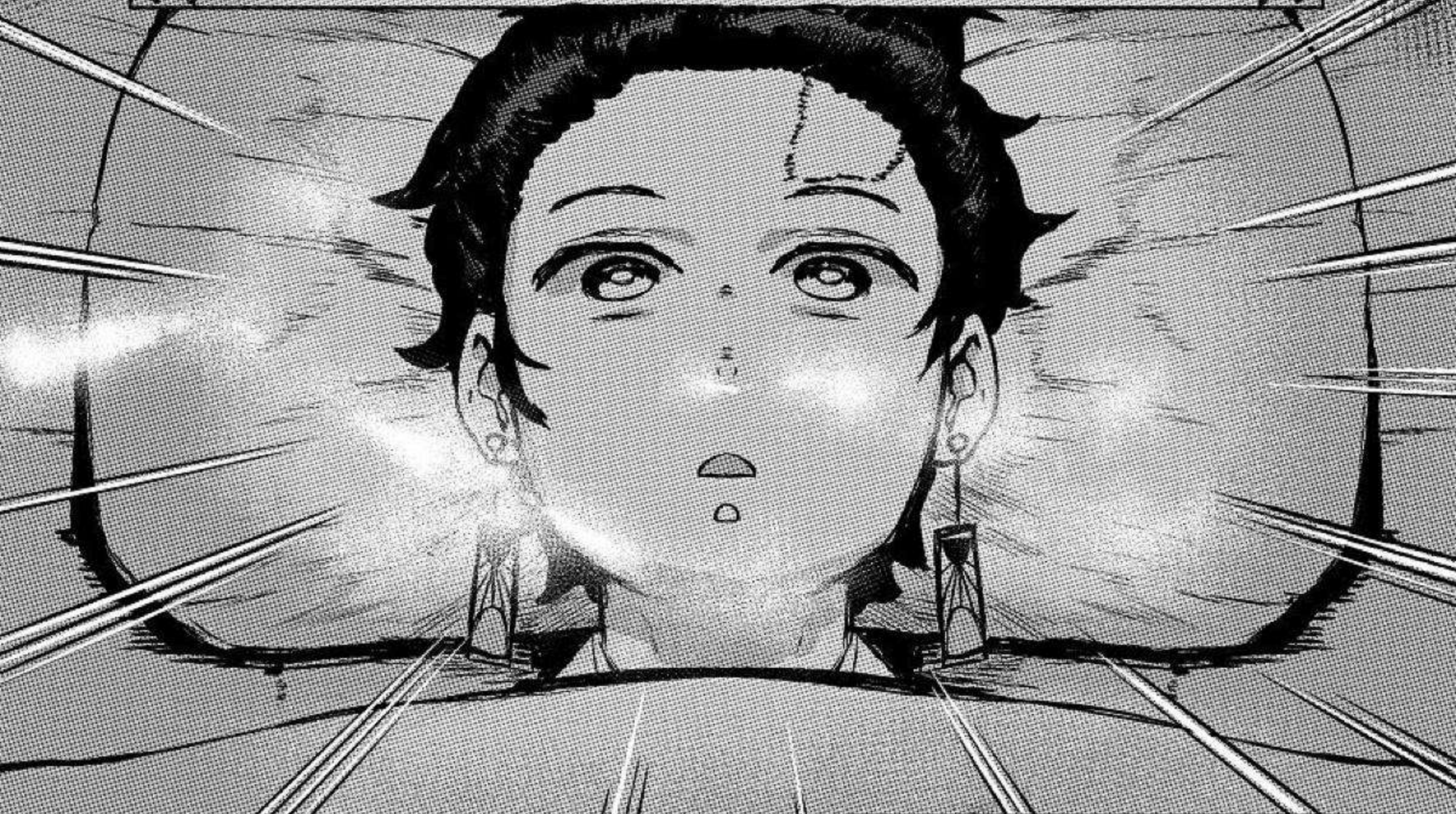


忘れよう…





フ...フ



フフ



まさか、また...



また...
その匂い!



かっしん!の匂いは母の匂いなの...匂い



あ...あ...はあ

びびり

ゴグリ



また母さんが
手淫している...

はあ

はあ
はあ

はあ...

ずびゅん
ずびゅん

びん

びん



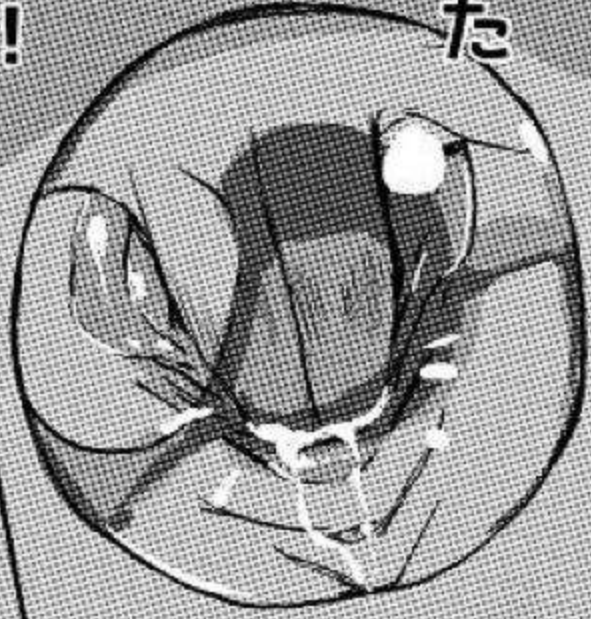
はあ…母さん…母さん…

愛しい母さん…
母さんのまんじり…



あの蕩けた

果実に!

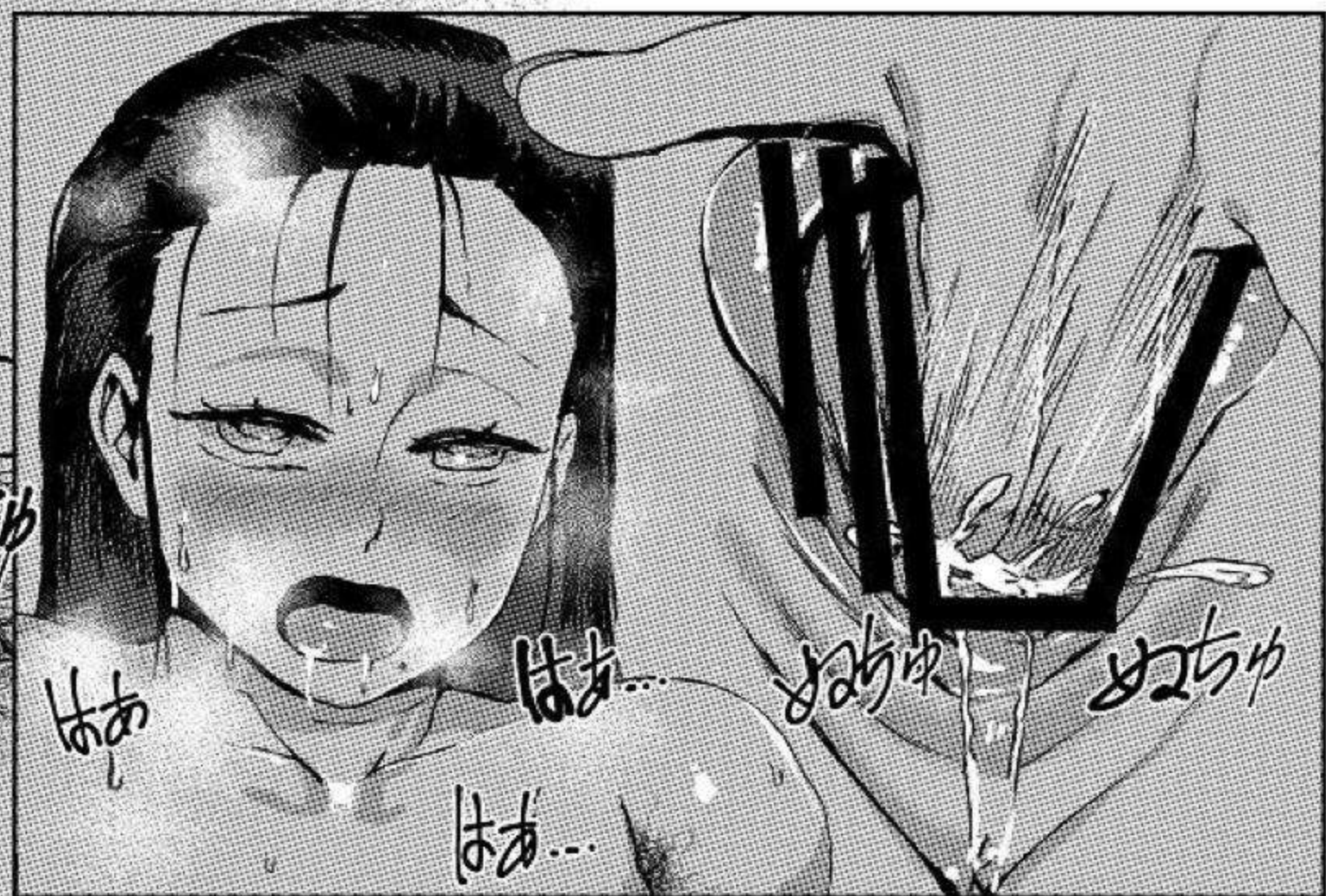


俺のチンポを入れられるなら…



俺が母さんを
慰めるのなら…





はあ…母さん…いせらしめたる
母さんの濃厚な匂いのせいで
気が遠くなる。



あつ♡

はあ

はあ

はあ

えみ

えみ

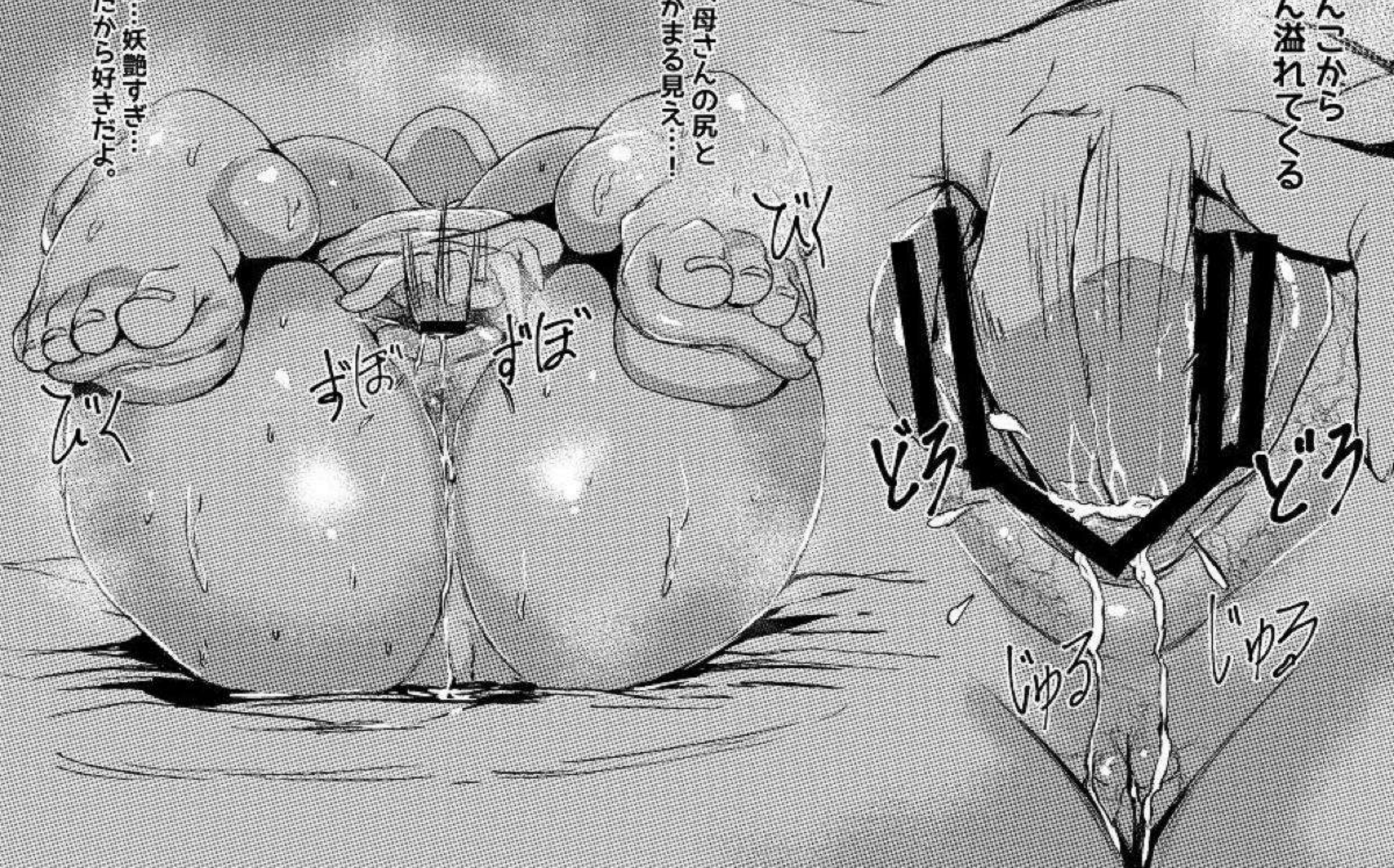
あつ

あつ

母さんのまんこから
汁がどんどん溢れてくる

わあ、母さんの尻と
あながまる見え…！

母さん…妖艶すわ…
でもだから好きだよ。



びく

ずぼ

ずぼ

びく

びく

じゅる

じゅる

母さんの手は

だんだん
はやくなってる!!



はあ...はあ...

思わず母さんの
速度に併せて行く...



ぬさ

ぬさ



かたあかあか!



んんん

んんん



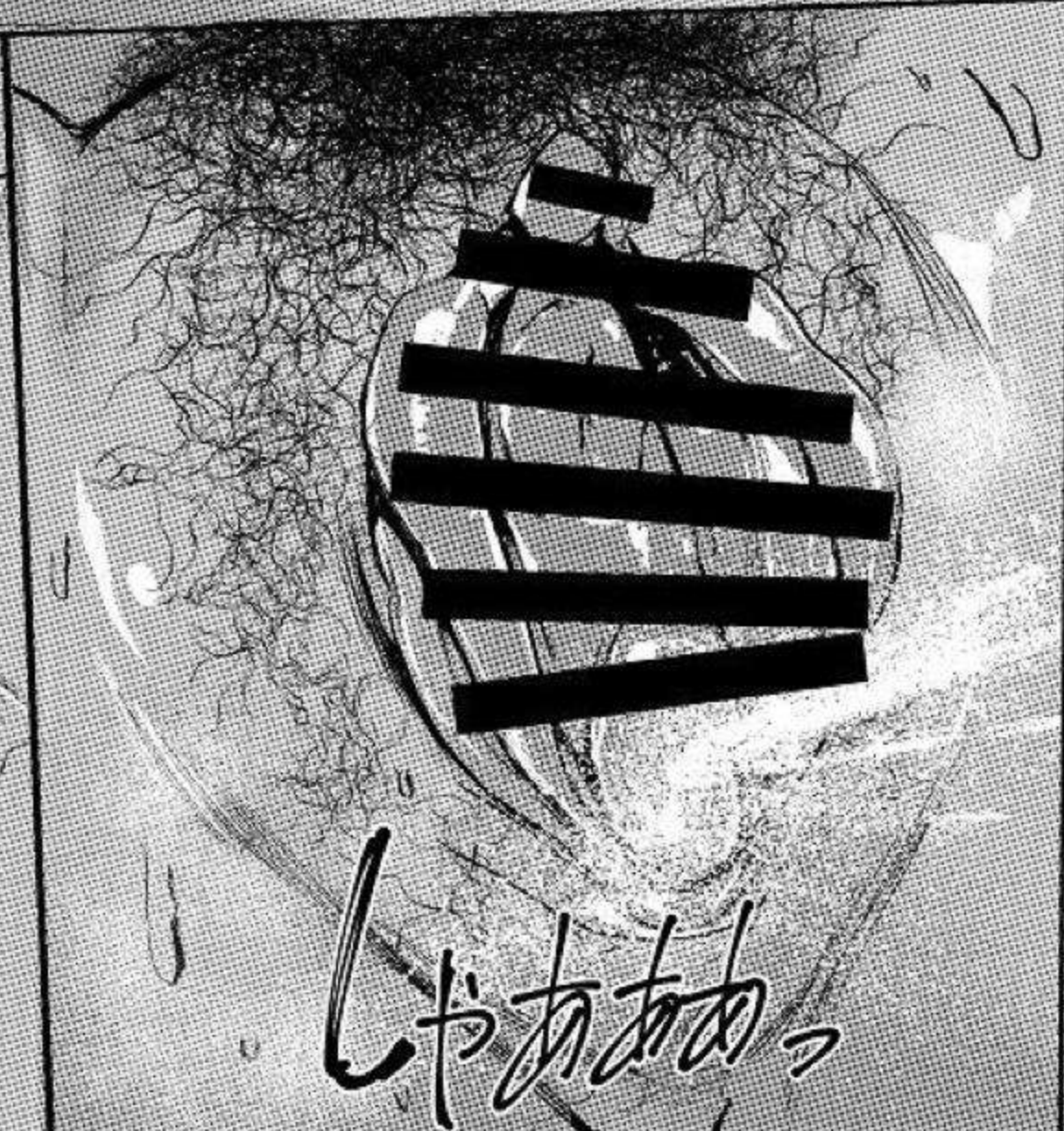


びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん
びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん
びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん

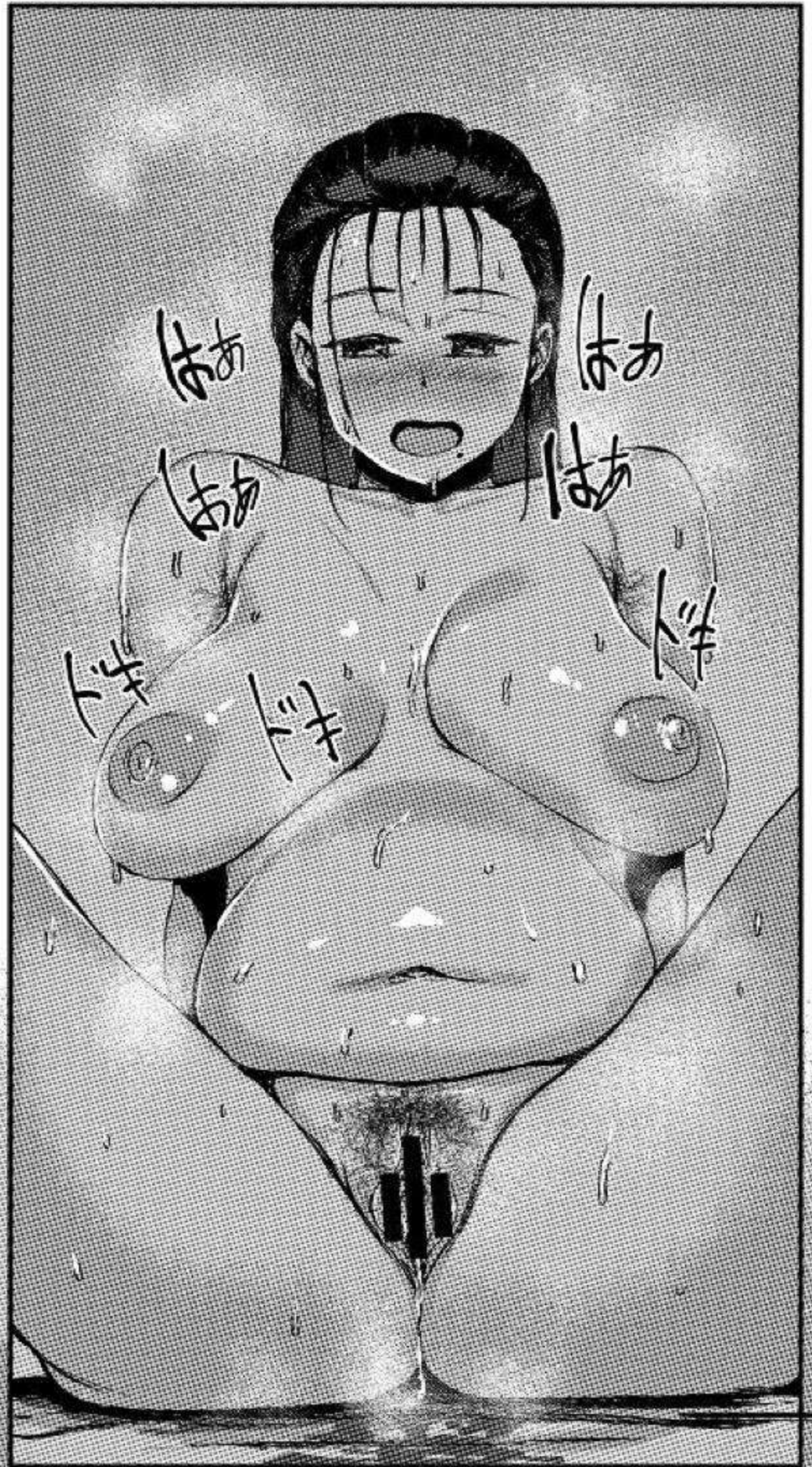
びん びん
びん びん
びん びん びん びん びん びん
びん びん びん びん びん びん びん びん



びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん
びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん



びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん
びん びん びん びん びん びん びん びん びん びん



た…炭治郎?!



な、何なの
あの子いつからあそこのいたの？
まさか乱れた姿、見られたのかしら？！
どうしよう...

もう炭治郎とこんな顔で向き合えばいいの...
母親として恥ずかしい姿みせたりして...
ううう...

あ...

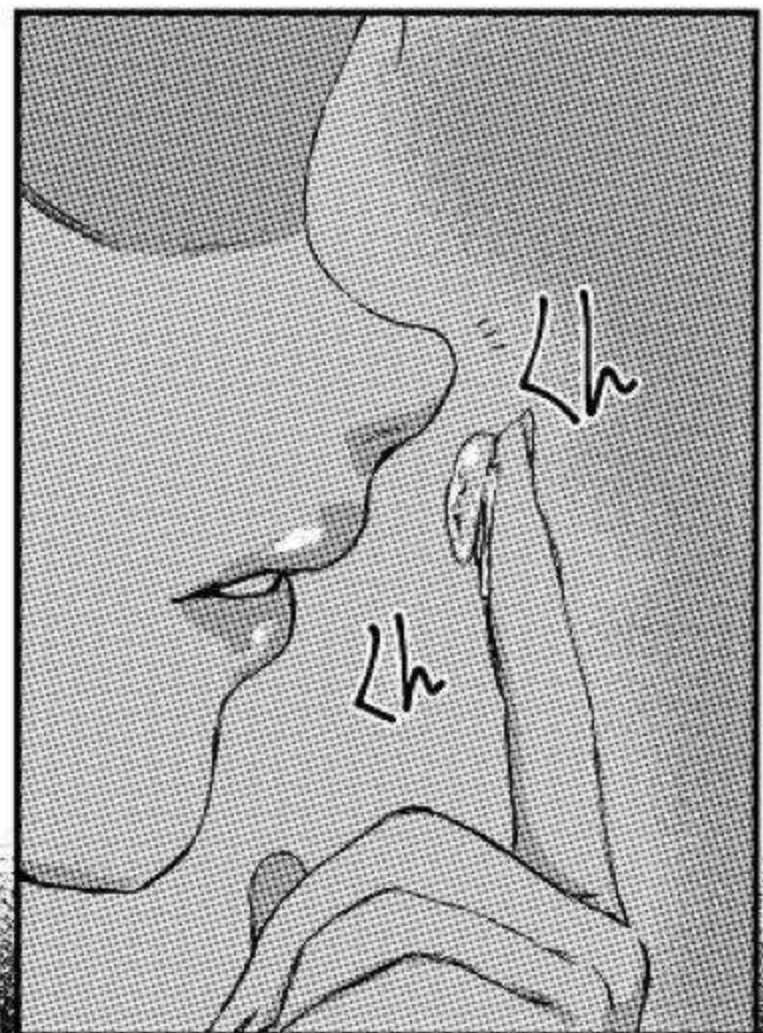
ん？

何だのん？

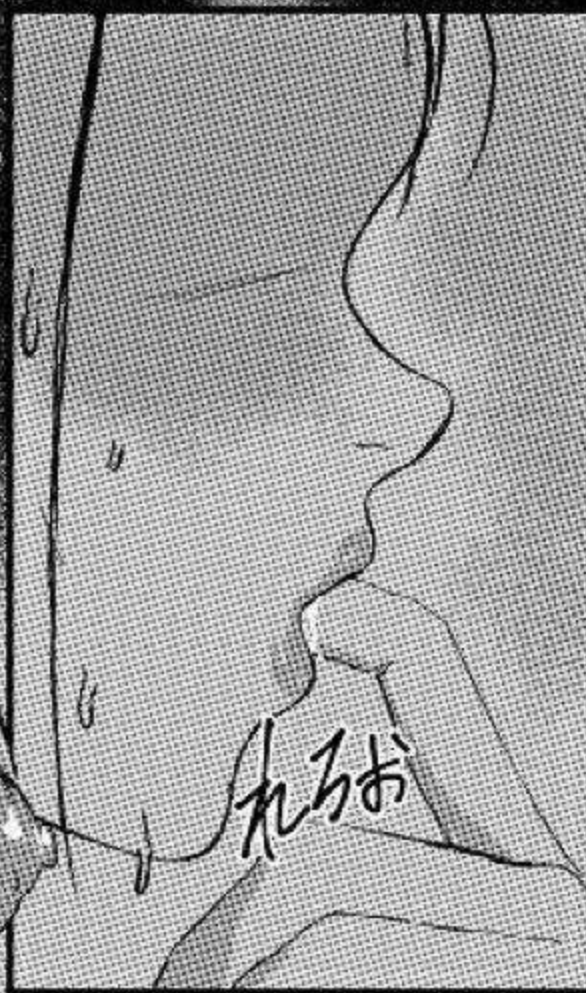
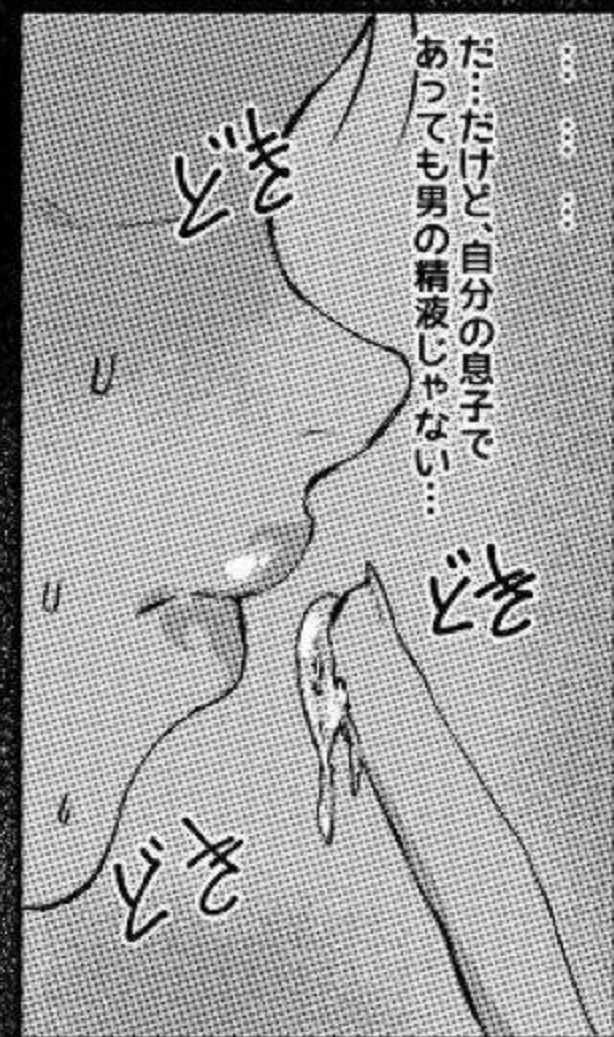
フ...

どろろ



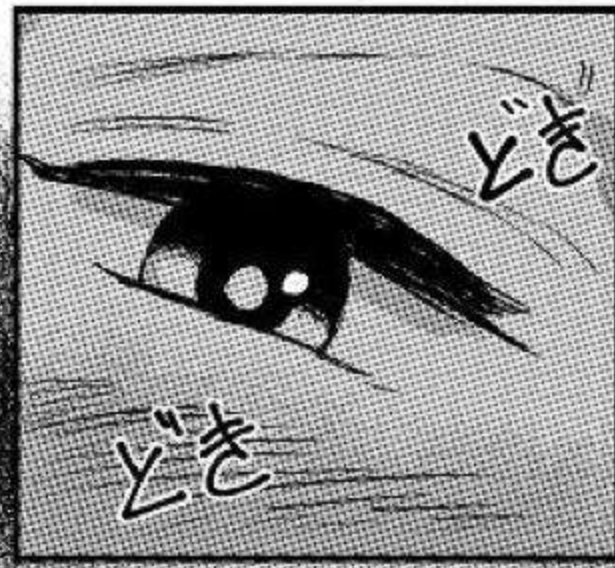


本当にもう...



あ...徐々に味わる男性の精液... 主人がなくなつた以来、忘れていたわ... しかし、今しゃぶつてるのは、息子である炭治郎の精液... うん...かなりの濃厚さ。あの子随分溜まつたようね。





もう…こんなに
射精するなんて…
私のことを母ではなく
女として見たのかな…



うん…匂いだけじゃない…
味のせいで頭がクラクラする。

はあ…まったく
自分の息子が出した
精液をなめてるなんて…
だけと…



炭治郎はだんだん主人に似て行くんだけど精液の味も似てる。

なんで息子の精液を舐めながら喜んでるの？

徐々に感じた精液だから？
それとも…オスを求めるメスの本能か…
しかしいま舐めてるのは息子の精液…

たけど今の瞬間、嬉しいと思ってしまっ。し



炭治郎の布団は
この障子の隣だったよね。

じゃあ、
今この障子を開ければ……

炭治郎……

白痴の身……



下キッ

下キッ

下キッ

下キッ

下キッ

下キッ

欲しい…
炭治郎のチンポが欲しい。

君はどうにかしら…

炭治郎

ドキ
ドキ

ドキ

ずっと…。



三番目の作品で「挨拶申し上げます。
今回は、次の作業物と繋がる連載ずつで、
行われるようになりました。
いきなりHなシーンより何か展開されて
話が進んでいる感じを与えたかったです。
それで何かもっと増やして33p...になって
作業の完成期間が不本意ながら長くなりました。
このHシーンは次の回に展開されるので
お楽しみに!!!!



